

さんぽみち



この絵は長崎市出身の画家、山下純司（1940～）の1978年の作品で、「ブルゴーニュ風景」とキャンバス裏にあります。

フランスのブルゴーニュ地方はパリの南東部に位置する山がちな地方で、ボルドーと並ぶワインの産地としても有名です。

画面は全体に暗くグレーがかった色調で、一見何が描かれているのか分かりませんが、全体をぼんやり眺めていると、教会のような尖塔、家屋、木立らしきものが浮かび上がってきます。曇り空で霧でもかかっているのでしょうか？それにしても、こんなどんよりとした風景を敢えて描かなくても、もっと爽やかな明るい日もあるだろうにと思ってしまいます。しかし一方で、私がこの暗いグレーの空間に何やら懐かしさを覚え心惹かれるのも事実で、これは画家のその日の鬱屈した心象風景であり、そこに私の気持ちが共鳴しているのではないかと気付きました。

このような大胆な、作品への気持ちの投影からは、作者の「若さ」を感じます。画家の一生の中で、その初期の作品は「若描き^{わかがき}」と言われる。未熟で完成されていないというやや否定的意味合いを持つ言葉のようですが、それらの若描きの中に、後の円熟期のものにはないその画家の強烈な個性がストレートに輝いている場合があり、私はむしろそちらに惹かれることが多くあります。

「若さ」というものの持つ矜持^{きやうじ}があり、それゆえの鬱屈が存在しているように思います。私は自分にも青春の憂鬱といったものがあつたことを、懐かしく久しぶりに思い出しました。

（鶏太郎）



<絵のある場所> 有馬病院外来相談室

（注）矜持 自分の能力を信じて抱く誇り

編集後記

今回のさんぽみち表紙は、「薦屋重三郎」です。
2025年の大河ドラマのテーマをもとに、入院患者さまがお花紙で合作されました。
生き生きとした躍動感が伝わってきます！

今後もさんぽみちへのご意見感想をお待ちしております

令和7年4月 広報委員会



医療法人 内海慈仁会
有馬病院

Arima Hospital

〒651-1412 兵庫県西宮市山口町下山口1637-5

TEL 078-904-0721 (代)

FAX 078-904-3186

E-mail : arima.hp@nifty.com

HP : <https://www.arimahp.or.jp/>



理念

心のやすらぎを求めて

基本方針

1. 良質の医療サービスを提供します。

人材育成に努め、安全や、人権に配慮した良質な医療を提供します。

2. 精神障害者の社会復帰を促進します。

地域の諸機関、施設等との連携に努め、復職支援等々の患者様の事情や、要望にあった社会復帰を促進します。

3. 地域の精神医療に貢献します。

精神科医療の地域への広報、啓発を進めるとともに、日常診療や救急診療に幅広く対応し、地域の精神科基幹病院として地域の精神科医療に貢献します。

さんぽみち春号によせて

おにぎりが好きです。外で食べるのはもちろん、家で炊き立てのご飯を塩むすびにして、そのまま食べるのもまた格別ですね。書いているだけで、口の中に温かさとやわらかさが広がっていくようです。コンビニのぱりとした海苔もいいですが、家で握ったものを外で食べる時のしんなりした海苔と、その味が染みたごはんも味わい深いですね。

おにぎりには単に栄養、エネルギー源というだけでなく、それ以上の力が宿っているような気がします。お米は、食を支えるだけでなく、古来からハレの日のものでした。人々はその年の感謝と、来年の希望を託して、お供えをし、祈りを捧げてきました。

日本のテレビ番組、アニメにもその力を感じるシーンが多くありますね。例えば、千と千尋の神隠しで、主人公千尋が泣きながら、おにぎりを食べて励まされている場面は、おにぎりのもつパワーを感じることができ、テレビで知る日本を楽しみに旅行に来る方々も、コンビニおにぎりを楽しみにされているそうです。

春になり、調子の不安定な方もいらっしゃると思いますが、好きな味のおにぎりを探して、食べてみてはいかがでしょうか。お米好きの一人として、令和の米騒動が早く収まってほしいと願っています。

医師 箸方 真基子

入院セットリースのご案内

令和7年4月より、入院セットリースが始まります。

**丸喜「入院セットリース」のご利用で手ぶらでの入院・入所が可能に！
入院生活のご負担を軽減します。**

いざ入院となると、想像以上に必要なものが多く、準備に手間取ることが多いもの。
丸喜の「入院セットリース」は、入院に必要な品々をまるごとリースすることが可能なため、手ぶらで入院生活を始められ、ご負担を軽減します。1日単位で入院期間に使用する衣類やタオル、紙オムツ、日用品などをご用意できます。

ご利用によるメリット

必需品の準備など入院生活に伴うご負担を解消し、ご家族さまとのお時間や治療に専念できる環境を提供します。

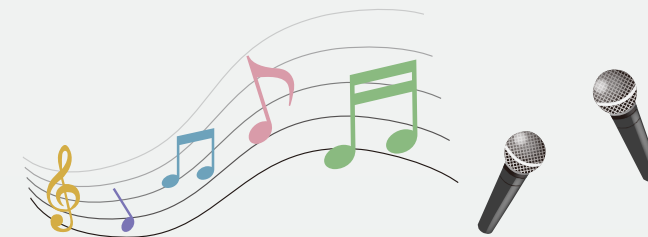
患者さまはもちろん、そのご家族にとっても必要品を準備し、備えて通うのは入院生活を送る上で大きな負担になります。丸喜の「入院セットリース」は、そういったご負担やお悩みを解消し、常に清潔で衛生的な必需品をご利用いただけるため、ご家族さまとの面会のお時間や、治療・療養生活に専念いただけます。また、ご家族さまが必需品を抱えて通う来院回数と負担の軽減。

丸喜の「入院セットリース」はおかげさまで関西圏を中心にたくさんの患者さまにご利用いただいています。

丸喜の「入院セットリース」は、創業以来培ってきたノウハウと信頼のもとに、約12万5500件（2021年7月現在）ものご利用実績を誇り、ご縁のつながりにより創業より連続して増収・顧客数増を重ねています。その歩みは、お客さまからの信頼の証。関西圏を中心として、今も皆さまの「ありがとう」の言葉をつなぎつづけています。



看護部だより



3病棟は急性期病棟の病床数43床の男女混合閉鎖病棟です。

月別平均入院者数15～16名、3カ月を目標に急性症状の鎮静及び軽減と身体管理を中心に、精神症状の早期安定を目指しています。入退院の出入りの激しい病棟ではありますが、スタッフ一丸となり患者さまへの安心・安全なサービス提供に励んでいます。そして看護ケアでは一律ではなく個性を重視し、その人に寄り添った看護をスタッフは日々考えながら行っています。

また、病棟では少しでも楽しい時間を過ごしていただきたいと考え、年2回ささやかではありますが七夕やクリスマス会をしています。新型コロナウイルス感染症の流行前までは、かき氷を作ったりケーキをデコレーションして食べたりと普段はあまり交流のない患者さま同士でも盛り上がっていただきました。現在は感染予防等もあり、以前のようにはいかないまでも、ビンゴゲームで景品をゲットしたり美味しいスイーツを用意して食べていただいたり工夫して行っています。皆さん入院という環境下のなか、日々不安やストレス等あると思いますが、少しでも笑顔で喜んでいただける時間があればと思っています。そして、この笑顔でまたスタッフが頑張ることが出来ています。

余談ですが、3病棟はjoysoundのカラオケルームがあり自由に使用できます。スタッフも時に患者さまの歌声を聴かせていただくことがありますが、美声や上手さに驚かされそこで新たな発見もありコミュニケーションの場にもなっています。

リハ室だより



病棟 OT（精神科作業療法）の活動紹介

病棟 OT の時間では作業療法士が手作りした物品などを使って、リハビリを行います。

ゲームでは楽しい雰囲気の中で、体が自然と動く姿がみられました。手作り神社では手を合わせてワクワクした気持ちでおみくじを引いてもらい運試しをし、良い表情や能力を引き出す OT プログラムを行っています。

OT を通して患者さまの社会参加を促すように工夫しています。

